

6. 北陸（地域別調査機関：一般財団法人北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連  (北陸)	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	百貨店（営業担当）	単価の動き	・今の時期は、お歳暮関連が消費のひとつのキーワードになり、件数は前年を下回っているものの、今年の傾向として単価が上昇してきている。贈り先を絞っても良い物を贈りたいという消費行動が見受けられ、全体的には件数が減少した分単価が上昇し、グロスでは前年をやや上回っている。
		乗用車販売店（経理担当）	販売量の動き	・11月の販売量は前年同月比86%である。8月の販売量は前年同月比73%であったので、3か月前と比較して上向きである。消費税増税の先送りもほぼ確実になり、下旬にかけて買い控え心理が薄らいできたものと考えられる。
		高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・和食部門が大幅なリニューアルを行い、メニュー最低価格を1000円上げたが、新聞やテレビニュースで取り上げられたこともあり、来客数も微増して、例年の売上に対して115%と好調な出足となっている。
		一般レストラン（店長）	来客数の動き	・今年の紅葉は色が良く、週末の天気も比較的良かったので、観光客が例年より多かった気がする。旅館業者からも久しぶりに前年比プラスだという声も聞いた。
		タクシー運転手	来客数の動き	・週末の観光地がにぎわっており、県外からの営業の客も多く入り込んでいる。
		通信会社（営業担当）	来客数の動き	・例年に比べて来客数は伸びているが、検討段階の客が多く、ボーナス時期を待っての購入を検討している方が増えているように思える。
	変わらない	商店街（代表者）	お客様の様子	・購買の様子はあまり変化がない。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・一気に寒くなってきたが、冬物の動きが悪い。街中を歩いている客も増えたという実感はなく、いいように解釈すれば年明けのバーゲン待ちといった雰囲気だ。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・最近の当商店街の状況は、売上面ではやや悪い状況で推移しているが、11月になり急に寒くなったため、一部衣料品販売部門などで冬物が売れているところがある。一部に売上増加しているところがあるが、全体的にはほぼ横ばい状態といえると思う。
		一般小売店〔精肉〕（店長）	単価の動き	・来客数は増加しているが、単価は低下しているように思う。今までよりも安い物が売れるような傾向がある。
		一般小売店〔鮮魚〕（従業員）	販売量の動き	・今の時期の販売の主力はなんと言っても「カニ」と「ブリ」である。昨今の時期は海がずっとシケていて散々だったが、今年は天候に恵まれ豊漁が続いている。おかげで販売も好調である。ただ、いきなり衆議院総選挙となったため、宴会などのキャンセルが開始、少しながらこの好調さに水を差している。
		スーパー（店長）	お客様の様子	・来店客の様子をみても、特に買物の仕方などは変わらない。
		スーパー（総務担当）	来客数の動き	・食品の売上は前年と同水準を維持しているが、ホームセンターや衣料品の売上は11月になっても前年割れの状態が続いている。客の節約志向はまだ続いていると思われる。
	スーパー（総務担当）	販売量の動き	・一部商品の値上がりや消費税増税の影響は薄まってきているものの、販売点数の落ち込みが止まらない状況で、消費はやや悪い状況で横ばいとなっている。	
	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・3か月前に近隣に同業の競合店が出店し、3大チェーンがそろい踏みして以来、来客数は1日約60～70人減のまま、今日まで続いている。	
	衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・当店舗だけのことを言うと、11月は良かった。その原因は、例年と比べて寒くなるのが早かったためだと思われ、自然現象のおかげということである。景気についてはいろいろな人の意見を聞いているが、変わらないというのが大多数である。	
	衣料品専門店（総括）	お客様の様子	・原価の高騰で、例年よりもわずかに商品単価を上げた結果、客の反応が非常に悪くなった。	
	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・新車の販売台数が大変少なく、前年同月比で70%の受注状況である。	
	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・新車販売、中古車販売ともに当初の計画を大きく下回っている。来客数も伸び悩んでいる。	

乗用車販売店 (役員)	販売量の動き	・小型車中心のディーラーでは回復傾向が見受けられるが、当社では消費税増税後の落ち込み以降、まだ回復基調にはなっていない。経済指標はともかく、昇給や賞与の増額などは実際あったことなのに、最近のメディアの論評がネガティブ過ぎるようだ。	
自動車備品販売 店(従業員)	販売量の動き	・集客面では依然として前年を下回っている。更にメンテナンス関連の落ち込みもあり、消費を抑える傾向を感じる。冬用のタイヤについても明らかに動きが遅く、買い控えもしくは低価格の商品に集中している。	
その他小売 [ショッピング センター](統 括)	販売量の動き	・衣料を中心に、靴やカバンなどの服飾品も含め季節関連商品の動きが悪かった。	
観光型旅館(経 営者)	販売量の動き	・9月以降、売上高が3か月連続で前年比増加している。	
観光型旅館(ス タッフ)	来客数の動き	・前年比総売上97%、宿泊人員93%、宿泊単価105%となっている。団体客が減少し、前年比90%となっていることが影響している。個人客(1~14名)は前年比99%で、個人客の宿泊単価はバブル崩壊以降では最高となっているが、1室当たりの利用客数が0.15人減少したのが原因で微減となっている。	
都市型ホテル (スタッフ)	販売量の動き	・レストラン部門は昼のビジネスマンの来客数も単価も下がっている。一方、宿泊部門は日本人客が減少しているが、外国人宿泊客が引き続き増えており、総じて前年並みである。宴会は、来年の北陸新幹線開通を控え、当年は前年より売上が悪い。	
通信会社(店舗 統括)	お客様の様子	・価格が安いからというだけでは購入意欲は上がらないが、価値を見いだすことができた商品にはお金を支払う。ランニングコストに関してはよりシビアになってきた感じがする。	
通信会社(役 員)	販売量の動き	・3か月前から継続して契約数が好調を維持している。また、解約者数も大幅に減少し、それを維持している。	
その他レジャー 施設(職員)	お客様の様子	・新規会員の獲得が思うように進まない。無料体験には動員できるが、有料体験になると動員が少なくなる。	
美容室(経 営者)	来客数の動き	・ここ3か月連続して来客数が前年割れをしている。今月も苦戦している。	
住宅販売会社 (従業員)	販売量の動き	・契約件数、契約額ともに増える感じがなく、停滞したままである。消費税の増税延期もあり、客の検討期間が増えたようだ。	
住宅販売会社 (従業員)	お客様の様子	・少しずつだが土地や建物の問い合わせが増えてはいるが、景気が良くなるとまでは感じられない。	
やや悪く なっている	一般小売店[事 務用品](店 員)	お客様の様子	・客の業種によりばらつきがあり、購買力のある客はまだ少ない。
	一般小売店[書 籍](従業員)	販売量の動き	・客が価格の安い店を選び、一般の店としては厳しい状況である。
	百貨店(売場主 任)	来客数の動き	・円安による影響が一般消費者に大きく出てきている。まだ積極的な買い控えにはつながっていないが、買物に対して消極的になっている。
	百貨店(営業担 当)	来客数の動き	・今年の秋は寒くなるのが早かったことから、コートなどの衣料品の動きが早まった。しかし先月同様、北陸新幹線開通に向けて改装している店舗が多く、客の心理的にも、来客数に影響が出ており、商材が売れない傾向にある。
	スーパー(店 長)	単価の動き	・この時期としては天候が非常に不順なことによるものか、安定した売行きとは言えない状況が続いている。野菜の相場安の影響もあり、客単価が上昇しない状況がまだ当分続くと思われる。
	スーパー(統 括)	販売量の動き	・3か月前からみると、いろいろな物の値上げということで1品単価は上昇しているが、客1人あたりの取引点数はだんだん減少してきている。11月初から減少気味の傾向がみえてきて、今も減少している現状である。現状は1品単価が上昇し客単価はキープしているが、今後は低下してくると思う。
	コンビニ(店舗 管理)	それ以外	・エネルギー費の値上がり、またその影響からくる輸入食材の値上がりで利益が圧迫されている。
	衣料品専門店 (経営者)	お客様の様子	・地方の中小零細企業は、本当に先行きが見えず、また客の財布のひもも大変固い。アベノミクス効果が出る前に、とうたされてしまうのではないかと心配している。

	家電量販店（店長）	販売量の動き	・気温が下がらず、暖房商品の売行きが悪い。	
	その他小売 〔ショッピングセンター〕	来客数の動き	・特売価格やポイント付与などに関心が高く、節約志向がまだまだ強いままである。	
	一般レストラン（統括）	競争相手の様子	・外食に携わる労働人口不足により、営業時間の短縮が売上高に影響している状況である。各社とも、円安による原料高、畜肉原料の供給量不足による価格高騰等の内部要因を売価に反映するタイミングをうかがっている状況である。	
	都市型ホテル（役員）	販売量の動き	・レストラン売上は前年と同じであるが、大会やコンベンションの減少により、宿泊及び宴会部門において微減となっている。	
	旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・個人客の動きが止まってしまっている。団体、個人トータルでは増収であるが、仕入れコストの増加などにより減益である。改善の兆し、きっかけがみえない。	
	旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・年末の選挙など忘年会自粛、歳暮需要の減少が懸念される。	
	タクシー運転手	来客数の動き	・11月は年末を前にして、消費に対して特に節約傾向が強くなっている。夜の街は人出が少ない。	
	通信会社（職員）	お客様の様子	・滞納件数など若干増加傾向にある。	
	通信会社（役員）	販売量の動き	・光回線によるテレビ、インターネットサービスを開始し、順次提供エリアを拡大しているものの、消費税アップ後の住宅新築数の落ち込み等により、契約数は横ばい状態となっている。	
	住宅販売会社（従業員）	来客数の動き	・展示場の来場者数は通常月の7割程度であり、仕掛けをしても1割増えるかどうかである。来客数は費用をかけて誘導を図っているが、思い通りの増加につながらない。消費税増税が不透明な中において、一過性のものなのか商談にも結びつかなかった。	
悪くなっている	コンビニ（店長）	来客数の動き	・前年比、売上客数ともに減少しており、先月と比較しても5%程度減少している。下げ止まっていたと思っていれば下げ止まっておらず、少し焦っている。外的要因は変化がなく、客の顔ぶれも変化がないように感じており、客単価の減少と1日に何度も来店する客の来店頻度が減ったことが主な要因ではないかと感じている。	
	その他専門店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・原因は分からないが、10月に入ってから悪い日が続いている。客の財布のひもが固く、とにかく売上が増加せず、不良在庫が増加する。悪循環が続いているという感じである。	
	スナック（経営者）	来客数の動き	・創業以来初めてであるが、開店休業の状態が何日もあり、いかに赤字を少なくと祈るだけであった。繁華街も人通りが少なく、老舗の経営者も春から悪くなっているとのことである。職業やフロー所得の有無で、はっきり二極化が表れている実感がある。	
	テーマパーク（職員）	来客数の動き	・客の動向をみると、円安効果もあり海外からのインバンド客は順調に伸びてはいるものの、国内客の動きが全体として鈍い状況である。国内の団体客はバスの交通料金の値上がりによって動きが鈍くなる傾向にあり、また個人客はガソリンなどの値上げもあり、全体的に前年比2割程度の減少である。施設内での買物やいろいろな消費も財布のひもが固く、鈍っている状況である。	
	住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・消費税増税の延期により、早期住宅建築を後押しする要因がなくなり、契約が先送りされることが予想される。	
企業動向 関連 (北陸)	良くなっている	-	-	
	やや良くなっている	一般機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・北米、欧州、日本市場とも前月と同等数の受注が獲得できている。
		輸送業（配車担当）	受注価格や販売価格の動き	・若干であるが運賃の値上げもできて、売上は増えてきている。軽油についても下がり気味で運送業者にとっては良い傾向である。
	変わらない	繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・輸出関連は多少動きがあるものの、内需関係の受注については力強さに欠ける。
	繊維工業（経営者）	取引先の様子	・年内までの受注状況は、一応安定している。来春の動きについては、新商品に期待をしている。	

	化学工業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・受注状況が横ばいで推移している。	
	プラスチック製品製造業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・消費税率引き上げの影響で、6月までは好調であったが7月以降は売上が落ち込んでおり、今も変わらない状態が続いている。	
	精密機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・秋以降、商品販売量が回復に向かうかと期待をしていたが、百貨店等の一部の小売店頭ではやや量が伸びており総量としては微増しているものの、計画レベルまではまだまだ達していない。	
	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・年末を控え、例年以上に技術者のやりくりに苦労し、休みなしの現場もあるほど多忙感がある。しかしそれが請負の宿命であり、また一過性のものであるので、これで景気が上向いていると判断することはできない。	
	建設業（総務担当）	受注価格や販売価格の動き	・受注価格競争は緩和傾向にあったが、地域によっては厳しい価格競争が起き始めている。	
	金融業（融資担当）	取引先の様子	・販売が伸び悩む中、仕入価格や運送コストなどが上昇しつつあるが、それを価格転嫁できる情勢にはなっていない。	
	金融業（融資担当）	取引先の様子	・資金需要は悪くない。一方で人件費などコストアップ要因も見られる。強弱双方の要因が感じられる。	
やや悪くなっている	食料品製造業（役員）	受注量や販売量の動き	・高付加価値の商材が伸びず、かといって低価格商材は前年同月水準と、全体的に受注量が伸び悩む状況である。	
	輸送業（配車担当）	取引先の様子	・年末の選挙の影響で一般貨物の動きが悪くなると思われる。	
	司法書士	取引先の様子	・事業用資金の融資に加えて、住宅ローンの案件もほとんどない状況である。	
	税理士（所長）	取引先の様子	・客の様子をみていると、9～10月に予定されていた仕事が来年にまわるなど、特に受注関係の仕事をやっているところでは、大手の会社の計画が先送りになっているような気配がある。大手が長期計画の見直しをしているのではないかと思う。いろいろな計画が先送りになっているのと、大手は生産設備について日本国内の投資ではなく、海外の投資をしているという感じがあることから、今のところ国内での生産量や雇用の増加について、付加価値の高いところは、なかなか実現していない状況ではないかと思う。	
悪くなっている	不動産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・同業者に聞くと、現在は情報も物件の動きも止まってきたという声が多く聞かれる。	
雇用関連 (北陸)	良くなっている	-	-	
	やや良くなっている	新聞社〔求人広告〕（役員）	求人数の動き	・11月の求人広告売上は前年同月の8割だが、3か月前から比べれば少し前年比率が良くなった。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・今月も新規求人が増加している。北陸新幹線の開業への期待感からサービス業を中心として、小売業などで求人数が増加している。
	変わらない	人材派遣会社（役員）	求人数の動き	・年末要員の需要はやや発生しているが、専門職や即戦力に手配できる人材は少ない。
		人材派遣会社（社員）	周辺企業の様子	・人材不足なのに派遣先の時給単価が横ばいなので、マッチングが厳しい状況が続いている。
		求人情報誌制作会社（編集者）	求人数の動き	・求人数の増減があまりない。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・求人数、求人広告の売上は3か月前とほぼ同水準である。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・最近では求人数の変動があまりない状況であることから、大きな変動はないと思われる。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数はパート求人増に支えられ、求人全体では微減から横ばいで推移している。
		民間職業紹介機関（経営者）	求人数の動き	・人材紹介、派遣とも目に見えての増加がない。登録者の数にも変化がなく低調である。
		学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・特に変化がない。
	やや悪くなっている	-	-	-
	悪くなっている	-	-	-